

刊行にあたって

歯周病は、世界中で蔓延し、わが国においても罹患率が8割を超える国民病です。私たちは、歯周病やう蝕にならないように、毎日歯を磨いているはずなのですが、なぜ罹患してしまうのでしょうか。

1日2回、朝と夜各3分間ずつ歯を磨くと仮定すると、1年間で2,190分（36.5時間）を歯磨きに費やすことになります。おそらく、多くの方は歯磨きにそれ以上の時間と労力をかけているでしょう。私たち歯科医療従事者は、それだけの患者さんの時間と労力に見合った効果を上げているのでしょうか。また、私たちは、歯周病の予防と効果的な治療を実践するために何を行うべきでしょうか。

本書では、わかってもつい見過ごされがちな日常臨床における歯周病のリスクファクターに焦点をあて、生物学的な要因、歯科医療従事者・患者さん側の要因、さらに知っておきたい関連因子についてリストアップしました。そして、それらの要因を解説するに相応しい著名な先生方に、最新の情報を交えて、わかりやすく実践的な内容をご紹介しますので、明日からの皆様の日常臨床にきっと役立つことと思います。

一口腔疾患である歯周病ですが、現在では歯周病がからだの健康を左右し、糖尿病、リウマチなど、さまざまな病気との双方向性（一方がよくなれば、他方もよくなり、逆に一方が悪化すれば、他方も進行する）が示唆されています。

本書を通じて歯周病のリスクファクターを見直し、そこから得られた情報を歯周病の予防と治療に取り入れることで、患者さんの口腔だけでなく、からだの健康維持や回復にも繋がることを願っています。

なお、本書の出版にあたり、デンタルダイヤモンド社の山口徹朗氏に、貴重な機会をいただきました。また、共同編集委員である南崎信樹先生からも激励を受けながら、多くの著名な先生方にもサポートをいただき、本書を完成できたことに感謝いたします。

2017年3月

稲垣幸司